

物腰

2023.5.23

今年度も、野田中学校には初任者がやってきた。1年目のK先生である。まず、3月に電話で話をした。すでに好青年の印象だった。その彼が、4月3日(月)の辞令交付式において、初任者の代表として「誓いの言葉」を述べるというではないか。「これは大変」と、また電話で話をし、学校に来てもらった。

初めて会ったのだが、やはり好青年だった。加えて、“物腰”が違った。物腰とは、人に接するときの言葉遣いや身のこなしである。ふるまいや態度である。ごく自然に、よくできていた。野田中学校に、またすばらしい人材がやってきた。若者と会うと、いつも自分の若い頃の姿と比べてしまう。私とK先生とでは、勝負にならない。物腰という点では、現在の私でも彼に負けている。そう思った。

辞令交付式での「誓いの言葉」がどうだったのか気になった。まず、本人に聞いてみた。「立派にできたの?」「いろいろな人に褒められました」どうやら、うまくいったらしい。その場にいた方にも聞いてみた。「最高でした」とのことだった。

4月6日(木)は、着任式からスタートした。K先生は、他の転入職員とともに、ステージに上がった。さすがに緊張した様子だった。だが、物腰が良かったためか、印象がよい。終わってから、彼に声をかけた。即時評価である。態度などを褒めた。一つだけアドバイスした。「ええと」が多い。あれでは、「ええと先生」になってしまう。意識しないと、いつまでも直らない。

午後になり、入学式を迎えた。K先生は、1年生の担任となった。彼以外は、ベテランの担任である。彼の学級が体育館に入場してきた。担任である彼が先頭である。何も起きなかった。全く見劣りしなかった。大したものである。

4月3日に登場して、4月5日には、職員室に馴染んでいた。さほど、心配する必要もなさそうだった。その後、彼は、生き生きと澁瀬と活躍している。

1年目のK先生もそうだが、2年目のY先生も、3年目のSS先生も、みな謙虚である。こちらが褒める。「いえいえ、そんなことは」という感じなのである。SS先生を褒めると、必ず恐縮している。3人とも、決して調子に乗ることはない。天狗になることもない。

3人がいるおかげで、それぞれの学年に20代の担任の先生がいる。まわりは、経験豊富な先生方である。若手を育てながら、自分でも成長できるであろう。ときには、若手から学ぶこともある。それがいい。3人から学ぶことはたくさんある。こちらが、教えられることもある。

1年目のK先生は、すでに立派である。だが、授業力をつけていけるかは、これからの彼の努力次第である。物腰だけでは、やってはいけない。経験とともに、力量をつけていかなければならない。彼にとっては、この1年が重要である。